

令和3年度 県立高萩高等学校自己評価表

目指す 学校像	(1) 生徒と教職員がお互いを信頼し、協働して成長できる学校 (2) 一人ひとりの多様性を認め、個に応じた支援をする学校 (3) 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路実現を目指す学校 (4) 誰にでも居場所があり、安心して自己実現を図れる学校 (5) 主体的な学習や体験を通し、社会性や勤労観を育む学校				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
【成果】 H30年度に定時制を開設。令和2年度に定時制としての初の卒業生を送り出し、3年次卒業の進学及び就職希望者は、100%に近い進路決定率を達成した。 【課題】 (1) 一人ひとりの多様性に対応し、個に応じた支援の研究 (2) 『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践、及び実践を促進するためのICTの活用 (3) 「生徒の居場所づくり」の充実 (4) 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路実現を実現するための研究 (5) 危機管理体制の確立と安全安心な学校づくり (6) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・キャンパスエイドの積極的な活用 (7) 午前部・午後部の二部制に対応した学校行事の効果的な実施 (8) 国際理解教育の研究と推進 (9) 広報の工夫と地域との連携の推進 (10) 主体的に取り組む生徒の育成		(1) 基礎学力の定着に基づく、確かな学力を育む教育の推進	『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践による公開授業を通して学習指導法の工夫改善を図り、「わかる授業」「考えさせる授業」「課題の発見・解決に繋げる授業」の充実に努める。加えて、1人1台のICT端末を有効活用し、生徒に学ぶ喜びや楽しさを実感させ、基礎・基本の定着の向上や、主体的・意欲的に学ぶ態度の育成に努める。	B	
		(2) 生徒一人ひとりに応じた、きめ細かな支援体制・特別活動の推進	個別面談の充実を図り、生徒理解に努め生徒と強い信頼関係を構築する。また、学校カウンセリング体制の充実を図り、心の居場所の確保とともに安心して学べる環境の構築・充実に努める。生徒の自主性を育みながら、生徒会活動を活性化し、特別活動や部活動の充実を図り、さらにキャリアパスポートを活用して、達成感、活動意欲を味わい、思いやりの心、規範意識、公共心を醸成し、心豊かな人間性の育成に努める。	A	
		(3) 生徒一人ひとりに応じた、きめ細かなキャリア教育の推進	将来を見通したキャリア教育の視点に立ち、各年次段階に応じたきめ細かなキャリアガイダンスや進路情報の提供を通し進路意識の向上を図る。また、生徒一人ひとりに望ましい勤労観・職業観を育み、キャリアパスポートを活用して、将来社会人・職業人として生き甲斐を持って生きていく生徒の育成に努める。	B	
		(4) 地域に貢献し、地域と連携を深め、地域に開かれた学校づくりの推進	積極的な学校公開や科目履修生の受入、地域行事やボランティア活動への積極的な参加を推進し、家庭や地域社会と連携・協力して生徒の健やかな成長を図る。また、HPや各種広報活動を通してフレックススクールとしての特色ある教育活動への理解と協力を得るように努める。	B	
		(5) 校務の精選とPDCAサイクルによる学校運営の改善、及び働き方改革の推進	本校の教育活動及び業務について、生徒の自立支援の有効性の観点から見直しを進め、実施可能な事案から必要性の低い業務は削減・縮減し、教職員のマンパワーを必要な業務に注力し、PDCAサイクルを用いて改善を図り、より効果的な学校運営に取り組む。また、校務・情報の共有化と視覚化により、業務分担を明確化し、教職員の勤務時間と業務負担の適正化に努めるとともに、生徒の学びをより豊かなものにできるよう努め、本校の働き方改革を推進する。	B	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」（スクールポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	① 自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞き、課題を解決しようとする人財 ② 地域・社会の課題に関心を持ち、自己の能力を活かして、社会貢献できる人財 ③ 他者と協働して、課題解決を図っていく人財		B	・卒業時に望まれる姿から逆算した、教育活動の設定

		「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	① 多様な学校設定科目から、自己の特性に合った科目選択 ・体験型の学習（リズムエクササイズ、日本の伝統文化《茶道・華道・書道》、折り紙） ・異文化理解（韓国の言語と文化１・２） ・基礎学力定着（基礎数学、実用英語、基礎国語、ベーシック社会など） ② フレックスならではの科目 ・ライフスキルを高める心理学・人間関係の構築 ・魅力！いばらきの農業・生産、収穫を通して達成感を得る ③ 柔軟なカリキュラムで、主体的な学習や体験を通し、社会性や勤労観を育み、希望に応じた進路実現を目指す	B	B	・個々の生徒に合った科目選択の推進や社会性や勤労観を育むための効果的な各科目の指導内容の研究。、	
		「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	① 自分の得意・苦手を理解し、得意をさらに伸ばし、苦手を克服しようとする生徒 ② 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒 ③ 学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒	B		・入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像のより効果的な発信。	
評価項目		具体的目標	具体的方法	評価		次年度（学期）への主な課題	
教科指導		家庭学習習慣の定着と基礎・基本の学習の定着を図る	学び直しを基本とした授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。	A	B	・生徒の取り組む意欲を高め、わかる指導の展開。 ・観点別学習状況の評価を活用し、社会に求められる資質・能力の伸ばす授業の展開。 ・ICTの効果的な活用の研究と校内研修の充実。	
			基礎・基本の定着を目指し、ドリルや小テスト等を実施し、生徒の理解度把握に努める。	B			
			定期的に課題問題集や課題プリントを課して、家庭学習時間を増加させる。	B			
		『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践により「課題の発見・解決に繋げる授業」の展開を図る	相互授業観察期間での公開授業での『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践と研究を推進する。さらに、日々の授業でICT機器を有効活用して生徒の授業理解を促進し、主体的に学ぶ意欲を育成する。	B			
			グループワーク等を取り入れ、ともに考え・学び合う環境の醸成を図る。	B			
			緻密な研究によりシラバスを作成し、観点別評価での評価の観点について生徒に周知し、生徒の学習意欲を喚起する。	B			
		生徒一人ひとりの多様性を認め、個に応じたきめ細かい指導を行う	生徒が興味を持って学習活動に取り組むことができるよう、指導法を工夫する。	B			
			一人ひとりと向き合い、ICT機器を積極的に活用し、個に応じた適切な支援を行う。	B			
教科指導	国語	授業の改善に努める	授業の内容・指導方法について担当者が相互に研鑽し、ICT機器を積極的に用いて分かりやすい授業づくりに努める。	C	B	・ICT機器の活用は、教科の特性上、課題（外部の資料が横書きのことが多い、クロームブックでは縦書きのデータ作成が難しいなど）が多い。しかし学びのツールとしてICT機器の活用を意識した授業づくりを次年度では展開していきたい。	
			各自が様々な文章に接することで研修に努める。	B			
		家庭学習の定着に努める	毎時間、前時の復習を行い、定期的にワークシートを点検する。	B			
			小テストを実施することで家庭学習の習慣を身に付けさせる。	B			
		基礎学力の向上に努める	ワークブックを利用した学習を行い、語彙力を高め、標準的な文章を読めるようにする。	A			
			進学希望者及び成績不振者に対し、課外・補習を実施し、個に応じた支援をする。	B			
	地歴・	基礎学力の向上を図る	定期的に提出物を確認し、授業内容の理解度を把握する。	A	B		・次年度は、さらなる基礎学力の向上と進路選択の幅を広
			定期的に課題や小テストを実施し、学習習慣を定着させる。	A			
			定期考査後に、理解の不十分な生徒に対しては課題を与え、基礎学力の定着を図る。	B			

	公民	生徒の進路希望に対応した学習指導に努める	新聞・インターネット等を利用して、地域的・時事的な問題を取り上げ、社会への興味関心を高める。	B		げるため、教科全体でICTを活用し、授業に深みを出していけるよう努めたい。
			基礎事項の徹底により、個々の進路希望に対応した授業を展開する。	B		
	数学	基礎学力の向上を図る	小テストや学習プリントで基礎の定着度を把握し、つまずきのある生徒に対して個別指導を実施する。	B	B	・ICT機器の使用機会を増やすとともに、教科のデジタル教材・教具を充実させ、より生徒の実態に合わせた指導ができるようにしていきたい。
			定期考査対策や学び直しの補習を実施し、繰り返し指導により学力を積み重ね、考査に取り組ませる。	A		
			わかりやすい教材工夫で学習内容を焦点化し、生徒に考えさせて興味を引き出し、学習意欲を高める。	B		
			授業に活用するノートやファイル、問題集等の定期点検を実施し、生徒の学習状況を確認する。	B		
		家庭学習の定着に努める	定期的な課題プリントや長期休業中の宿題を課して定期点検し、家庭学習の習慣を付ける。	A		
		個々の理解度にあわせた指導に努める	授業内容の復習と学び直し中心に個別の質問に対応し、基礎力を養成する。	B		
	理科	興味・関心をもたせる授業を展開する	ICT機器や実験・観察を積極的に行う。	B	B	・ICT機器利用の頻度を増やす、テストの結果を授業に反映するなど、より一層基礎学力の定着を重視していきたい。
			日常生活と科学的事象とのつながりを意識した導入・例示を積極的に用いる。	A		
		基本的な授業態度を身に付ける	生徒の発言する機会を多く設け、主体的に授業に取り組ませる。	B		
			授業プリントを定期的に点検し、授業への取組や理解度を点検していく。	A		
		基礎学力の向上を図る	小テストを実施し、学習の理解度を把握し、補習等も実施する。	B		
			小中学校理科とのつながりを重視し、基礎的基本的知識の定着を図る。	A		
			進学希望に十分対応していけるよう、応用的内容の充実を図る。	B		
	保健体育	個に応じた基礎体力の向上を図る	毎時間授業の導入段階で、グランドを自分に合ったペースで2周(800m)走らせる。	A	A	・ICT機器を活用し、個々の運動習慣や運動能力に応じた運動実践ができるよう努めていきたい。
			ICT機器を活用し、自分の身体の動かし方を理解させる。	B		
		集団行動の意義を理解させる	準備運動には県民体操を全学年に取り入れる。	A		
			集合・整列・右へならえ等の集団行動を導入段階で行う。	A		
	芸術	芸術を愛好する心情を育てる	音楽・美術の基礎的な能力や態度を育てる。	B	B	・様々な表現方法を体験させることはできたが、自分の考えを的確に表現する部分には難しさもあったため、表現できるようになるための手立てを研究していく。
			様々な表現方法を体験させ自分の考えを的確に表現する力を育む。	B		
		個性豊かな表現の能力を高める	生徒一人一人の特性を考慮した指導を工夫する。	A		
			作品の多様性などについて考えさせ、鑑賞の能力を高める。	B		
	外国語	家庭学習の習慣化と基礎・基本の定着を図る	学び直しを基本とした授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。	A	B	・新課程への取り組み。 ・基礎・基本の定着。 ・ICTの活用とさらなる研修の実施。
			基礎・基本の定着を目指して、小テストを実施し、生徒の理解度把握に努める。	A		
			定期的に課題問題集や課題プリントを課して、家庭学習時間を増加させる。	B		
		「わかる授業」、「教えて考えさせる授業」の展開を図る	「わかる授業」で生徒に達成感をもたせ、主体的に学ぶ意欲を育成する。	A		
			ペア・グループワークを取り入れ、ともに考え・学び合う環境の醸成を図る。	B		
			学習内容を精選し、生徒が興味を持って学習活動に取り組むことができるように、指導法を工夫する	A		
			授業内でICTを活用し、動的で双方向的な活動をすることで、英語に対する興味関心を高める。	B		
		生徒一人ひとりを大切にす るきめ細かい指導を行う	一人ひとりの習熟度に応じた適切な指導を行う。	B		
			一人ひとりが希望進路を実現できるように、個に応じた指導を行う。	B		
		異文化理解を深める	英語母語話者であるALTの英語に触れさせ、実践的コミュニケーション能力を養成する。	B		

	家庭	基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る	ICT や学習ノート等を活用し、わかる授業に努める。	B	B	・ ICT 機器の利用頻度を増やし、小テストや課題提出の効率化を目指す。また、新型コロナウイルス対策をしながら、実習なども進めていきたい。
			実習においては、実習助手とともにきめ細かい指導を心がける。	A		
		安全管理の徹底に努める	衛生に気を配り、事故やけがの無いようにする。	A		
			包丁・調理器具等の数の点検を毎時間行い、備品の管理を徹底する。	B		
		楽しく意欲的に取り組める授業づくりに努める	考える時間、実習する時間を十分に確保する。	A		
	農業		定期的な提出物の確認を通して、学習意欲を高めるとともに、つまずきに気付く支援する。	B	B	・ 今年度の実習をさらに発展させ、体系的なものにする。 ・ ケガのない実習に努める。 ・ ICT を活用し、わかりやすい授業に努める。
		基礎的な知識と技術の定着を図る	生育環境や身近な草花や作物の栽培法を理解し、実習を通して収穫の喜びを知る。	B		
			県内農業の特徴を理解し、産業の分布と地域性を学ぶ。	B		
			ICT を活用し、わかる授業に努める。	B		
		安全衛生管理の意識を持たせる	生産物の加工を通して、食品の安全と衛生管理を理解し、生活に生かすことが出来る。	B		
			農機具・造園用具の使用法を徹底させ、安全な利用の定着を図る。	A		
		命の大切さを体得する	草花や作物の栽培を通して、命を育む大切さを理解させる。	A		
	総合		草花や作物の利用を通して、人間が生活するために命を利用する必要性を理解する。	A	B	・ 各教科の活動をととして体験的に学習する態度やコミュニケーションスキルが身につけられるように努める。
		「ライフスキルを高める心理学」：豊かな人間関係をつくる	自己理解、他者理解を通して、豊かな人間関係をつくり、対人関係におけるスキルを習得する。	B		
			心身の健康を保つ力を養う。	B		
			自分の生き方について考える。	B		
		「リズムエクササイズ」：コミュニケーション能力を育成する	リズムに乗った動きを通し、自己表現することで、心と体をほぐす。	A		
			集団でエクササイズをすることにより、他者との関わりを広げる。	A		
		「日本の伝統文化」：日本の伝統文化への理解を深める	華道・茶道・書道などの日本の伝統文化に触れる。	A		
			活動を通して他者との関わりを学び、コミュニケーション能力を身に付ける。	A		
		「折り紙」：折り紙をつくることで達成感を得る	折り紙の基礎的な技法を学び、日本の伝統文化である折り紙の美しさを感じる。	B		
			作成した折り紙で他者と遊び、コミュニケーション能力を身に付ける。	B		
	教務	「韓国の言語と文化1」：韓国語と韓国文化の理解を深める	韓国語の初級文法を習得し、会話の能力を高めて韓国語に親しむ。	B	B	・ 新課程への対応 ・ 図書館利用者の増加を図るため、図書便りを発行し、新刊のお知らせなど、情報発信していく。また、授業で図書館を活用できるよう環境整備を整る。 ・ 設備の充実を図ると共に、ICT や視聴覚教材の利用を促進する。
			韓国の文化に触れる。	B		
		本校の実態にあった教育課程を作る	本校の特色を出した教育課程を編成する。	A		
		適正な行事の配置と授業時間の確保に努める	年間・月間行事予定の作成、日課・授業変更調整等を年次・各分掌と連携をとって行う。	B		
			曜日間・時限間の授業時間の調整、授業填補の励行等を進める。	A		
			できるだけ多くの授業時間を確保し、生徒の基礎学力向上を目指す。	B		
		人権や同和問題への関心・理解を深める	研修を通して、諸問題を理解し、意見を交換することによって考えを深める。	B		
		広報誌や中学校説明会を通じて広報活動を活発に行う	年次・各分掌と連携をとって情報を収集し、地域や中学校に高萩高校の現状を発信する。	B		
		視聴覚室利用の推進を図る	視聴覚教材を充実させるとともに、利用者の機器操作技術の向上を図る。	B		
			授業・総合学習などでの積極的な活用を呼びかけ、学習意欲の向上につなげる。	B		
		図書の精選・充実を図ると	生徒への図書館情報の発信に努め、カウンター当番や図書の管理など、図書委員会活動を活発に行う。	B		

	もに、図書館利用の推進を図る	図書館の利用を増やすとともに、マナーの周知を徹底する。	B	B	・コロナ禍において、対外的な活動が制限され、十分な活動はできなかった。この先のコロナの状況に合わせた活動を模索し実施していく。
		授業・LHR・総合学習・課外活動などでの有効利用を図る。	B		
	PTAや同窓会と連携して生徒の教育活動の支援に努める	評議員会やPTA総会・講演会等における出席率の向上を目指し、綿密な連絡、事前準備、計画を行う。	B		
		研修・広報・生徒指導の3委員会活動の綿密な計画、事前準備を行う。	B		
		講演会の形式や研修旅行の内容見直しを図り、会員相互の研究、研修を充実させる。	B		
		PTA会報や配付文書の内容を見直し、保護者に学校内における生徒の活動状況や教職員の努力の姿勢を十分に伝えることを心がける。	B		
		学校行事等の連絡を徹底し、学校と家庭の連携を強化する。	A		
		同窓会の運営を滞りなく行う。	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	日々の教育活動（服装指導・授業強化等）を通して、社会で通用する人材の育成を図る。	B	A	・生徒一人一人の特性に応じて、適切な指導に努める。 ・教員間等の情報共有をさらに密にし、家庭・地域と連携して指導を行う。 ・健全育成型の開発的生徒指導の研究と実践に努める。
		家庭・地域・関係機関との連携（マナーアップ等）を図り、いじめ・非行等の未然防止に努める。	A		
	生徒理解の深化	生徒個人面談等で生徒の心の声を拾い上げ、軽微なSOSに対しても教職員の一致協力・連携による組織的指導体制の確立を図る。	A		
		生徒の実態・発達段階を踏まえながら、生徒が自己有用感を持てるよう寄り添い指導にあたる。	A		
	安全教育の充実	朝夕の声かけ指導や通学路巡回の強化、交通関係の届（原付免許取得届等）等の提出の徹底を図る。	A		
		学校安全教育（交通講話等）の実践及び交通安全教育の推進に努める。	A		
特別活動	生徒会役員や各種委員会を中心とした魅力ある学校生活の実現	生徒評議会を定期的に開催し、クラスや各種委員会での話し合い活動の定着を図る。	B	B	・コロナ禍のような制限がある中でもできるような行事の実施方法を検討する。生徒の特性を踏まえ、1人1人の生徒が活躍できるように、行事の見直しや部活動の活性化に取り組みたい。
		一人一役による、生徒一人ひとりが活躍できる環境づくりに努める。 キャリアパスポートを活用して、達成感、活動意欲を共有し、自己承認感を育む。	B		
	生徒会活動の活性化	生徒会活動が全校生徒によって運営されるように努める。	A		
		生徒会選挙では、実際の選挙に近づけて学びの場としての機能を設ける。	A		
	行事への積極的な参加	スポーツデイや芸術鑑賞会において生徒主体で企画・運営ができるように支援する。	B		
		部活動の活性化	C		
進路指導	進路決定率100%を目指す。	各年次と連携し、早い時期からの進路研究を促す。	A	A	・生徒の適性を考慮した上での進路指導の必要性。 （入社後、離職しないように。）
		学校教育活動全般を通して、生徒の進路意識向上を図る。	B		
	適切な進路選択と早期進路決定を図る。	進路希望調査を実施し、希望に応じた進路ガイダンスを実施する。	A		
		進路体験学習、インターンシップ、1日看護体験への参加を促す。	A		
	個性や能力に応じた適切な指導に努める。	課外授業、模擬試験、資格試験等、生徒の要望に応じて適切な設定をする。	A		
		希望進路に応じた面接指導、作文指導の充実を図る。	A		
	全校集会や年次集会における進路講話を通して、キャリア教育の充実を図る。	（進学）進学の目的を明確にし、進路実現のための学校選択ができるようにする。	B		
		（就職）働く意義を理解し、将来設計できるようなキャリア教育の充実に努める。	B		
保健厚	生徒・教職員の健康の保持・増進に努める	生徒や保護者にわかりやすく情報を提供し、キャリアパスポート活用等、情報の積極的な活用を促す。	B	B	・引き続き支援が必要な生徒について、SCや生徒支援委員会からの意見を教員間で
		年間計画に基づき、健康管理、保健指導、健康診断、生活環境調査等の円滑な実施を行うとともに、保健だよりを通して、生徒・教職員に保健指導を行う。	A		
		心身の健康が気になる生徒については、担任、年次主任等との日常的な報告・連絡を密にする。	B		

生	学校の環境整備・美化に努める	掲示物やクラスでの清掃オリエンテーションを通して、清掃、ゴミの分別処理等の徹底を図る。	B		共有し、教育相談の充実に努めていきたい。
		校内安全点検を定期的に行い、校舎内外の改善箇所を把握する。	A		
		エアコンの使用上の注意を周知し、体調管理や節電に留意するよう促す。	A		
	火災や地震等の災害防止に努める	防災訓練の在り方を工夫・改善したり、災害対応備蓄品を整備したりして非常時に備える。	B		
		危機管理マニュアルを作成し、教職員に非常時の対応について周知する。	B		
	関係諸機関の連携と教育相談の充実	生徒個人面談を強化するとともに、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・キャンパスエイドの活用と教職員の協力・連携による組織的指導体制の確立を図る。	A		
1 年次	生徒一人一人の特性に寄り添い、達成感を持たせる	生徒達への声掛け、休み時間の観察、生徒面談等を通して生徒の状況把握及び生徒理解に努める。	A	A	・特別な支援を要する生徒への対応ができる環境の整備。 ・生徒の進路等を見据え、外部機関との連携を強化。
		部活動や各種委員会・生徒会活動等での一人一役活動により生徒の自己有用感を育む。	B		
		生徒のチャレンジを褒め・育てる加点主義による指導で生徒の自己肯定感を育む。	B		
	保護者との信頼関係を構築する	良いこと・悪いことに関わらず学校での生徒の様子を伝え、家庭との情報交換を密に行う。	A		
		年次通信・学級通信等を通して、学校やホームルームでの様子を家庭に定期的に知らせる。	A		
	教員間の密な連携により、組織的に活動する	機動的に年次会を開催し、教員間の情報交換・共有を密にし、計画的な指導を行う。	A		
2 年次	生徒一人一人の特性に寄り添い、達成感を持たせる	生徒達への声掛け、休み時間の観察、生徒面談等を通して生徒の状況把握及び生徒理解に努める。	A	B	・組織的な進路指導を充実させることで、進路希望先を決定できるように努める。
		部活動や各種委員会・生徒会活動等での一人一役活動により生徒の自己有用感を育む。	B		
		生徒のチャレンジを褒め・育てる加点主義による指導で生徒の自己肯定感を育む。	B		
	保護者との信頼関係を構築する	良いこと・悪いことに関わらず学校での生徒の様子を伝え、家庭との情報交換を密に行う。	B		
		年次通信・学級通信等を通して、学校やホームルームでの様子を家庭に定期的に知らせる。	B		
	教員間の密な連携により、組織的に活動する	機動的に年次会を開催し、教員間の情報交換・共有を密にし、計画的な指導を行う。	A		
3 年次	基本的な生活習慣の確立に努める。	チャイム前着席と授業準備を徹底させ、授業に集中できる環境づくりに努める。	B	B	・生徒の個性や特色を見極めた進路指導とそれを支える体制の組織作りが必要である。
		社会生活で役立つ言葉遣いやマナーの基礎を身に付けさせる。	B		
	学校・家庭・生徒の相互の信頼関係を深める。	生徒の様子を面談や電話で保護者に連絡し、家庭で気になる様子があれば学校に伝えてもらうよう保護者に働きかける。	A		
		学級通信等を活用し、学校生活の様子を家庭に知らせる。	B		
	卒業後の進路に対する意識や目標を持たせ、授業を大切にしている態度を育てる。	進路指導部と協働して適切な情報を生徒に提供し、卒業後を見据えた進路を選択させる。	A		
		進路行事や授業等を通じて、進路の適性や決定までの手順について理解させ、希望に沿った進路指導や学習指導に努める。	A		
4 年次	基本的な生活習慣の確立に努める。	チャイム前着席と授業準備を徹底させ、授業に集中できる環境づくりに努める。	B	B	・基本的な生活習慣を確立し、欠席や遅刻を減らしたり、報告・連絡・相談を徹底したりするなど、社会生活におけるマナーの定着を図る取り組みが必要である。
		社会生活で役立つ言葉遣いやマナーの基礎を身に付けさせる。	B		
	学校・家庭・生徒の相互の信頼関係を深める。	生徒の様子を面談や電話で保護者に連絡し、家庭で気になる様子があれば学校に伝えてもらうよう保護者に働きかける。	B		
		学級通信等を活用し、学校生活の様子を家庭に知らせる。	A		
	卒業後の進路に対する意識や目標を持たせ、授業を大切にしている態度を育てる。	進路指導部と協働して適切な情報を生徒に提供し、卒業後を見据えた進路を選択させる。	A		
		進路行事や授業等を通じて、進路の適性や決定までの手順について理解させ、希望に沿った進路指導や学習指導に努める。	A		

※評価基準 A：大変良くできている B：良くできている C：やや不十分 D：不十分 E：わからない